

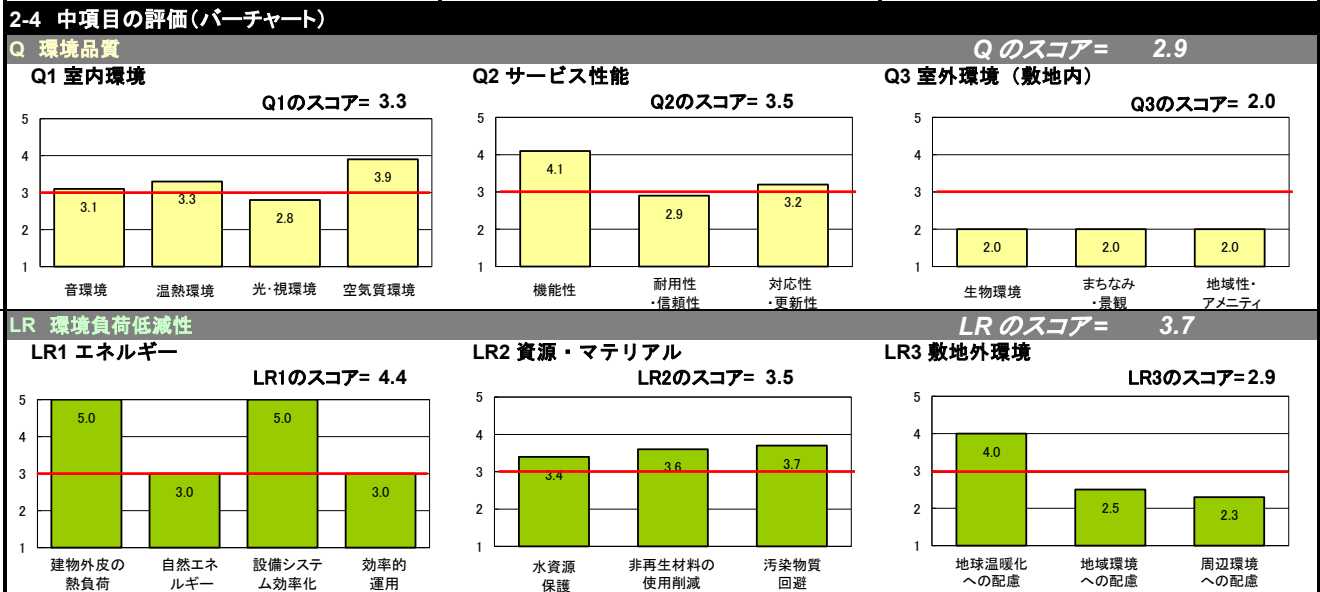
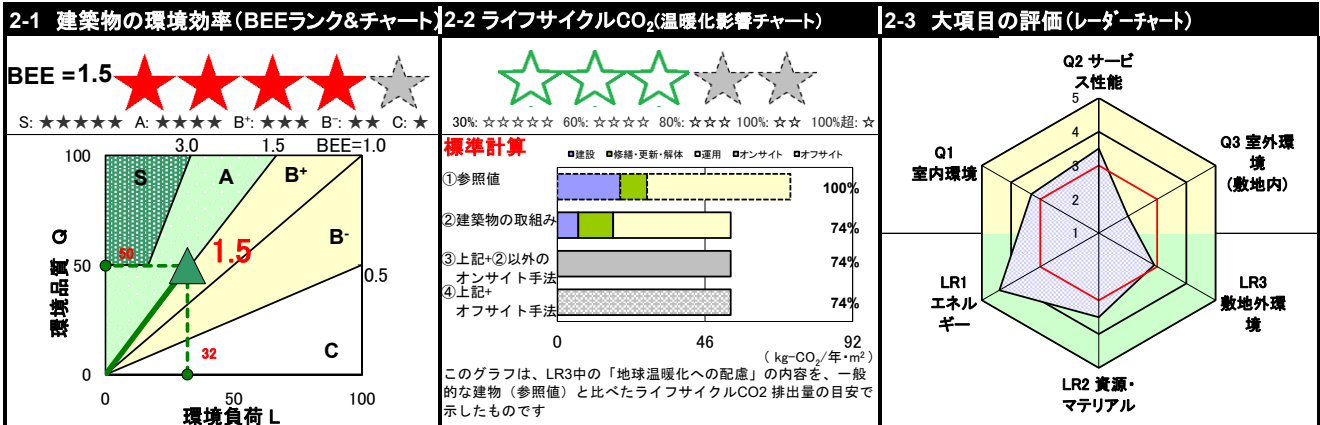
CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE 総合評価システム（2016年版） ■使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛知県名古屋市昭和区山手通四丁目計画	階数	地下1F,地上14F
建設地	名古屋市昭和区山手通四丁目5番、八事本町50番1,50番2	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	720人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年9月 予定	評価の実施日	2026年3月13日
敷地面積	7,789㎡	作成者	
建築面積	1,661㎡	確認日	2026年4月30日
延床面積	16,640㎡	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地内を積極的に緑化するとともに、断熱材の高性能化や省エネ機器の導入等、エネルギー効率の良い建物となるよう配慮している。	
Q1 室内環境 建築基準法の求める必要最低限の性能を確保している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内を積極的に緑化している。
LR1 エネルギー 高効率設備(給湯器)を採用し、断熱性能等級5を確保している。	LR3 敷地外環境 駐車場、駐輪場を住戸数に対し100%以上確保している。
Q2 サービス性能 維持管理しやすいよう、清掃・点検等の維持管理機能の確保に努めている。	
LR2 資源・マテリアル システムキッチン、ユニットバスの水栓に節水、節湯タイプの商品を採用、便器も節水型機器を使用している。また、構造体力上主要な部分にリサイクル材を採用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)愛知県名古屋市昭和区山手通四丁目計画

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.1
LR1	エネルギー	4.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.1
2. 自然共生	評価点 = 1.9
3. 循環型社会	評価点 = 3.5

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。